

# 学校便り 2月



薩摩川内市立海陽 中学校

令和3年2月22日発行 No.10  
<http://www.edu.satsumasendai.jp/kaiyou-j/>

## 如月 総仕上げに向けて

校長 前田真喜子

2月も半ばを過ぎ、いよいよ海陽中学校休校まで1か月余となりました。まさに「光陰矢の如し」です。

東日本大震災から10年という節目を目前にして、13日に最大震度6弱という地震に東日本は襲われ、東北では道路や水道管破損など被害も出たようです。夜間で、震度は以前より大きかった地域もあったようですが、前回の教訓が生きて対応できたと感じた人も多いようでした。

先日ある映画を視聴する機会がありました。天才科学者が亡き妻の困っている人を助けたいという思いを実現させた医療AIが、医療だけでなく様々な個人情報を管理し社会生活のインフラとして欠かせない存在となるなか、ウイルス感染により暴走し、その結果人間の命の価値を選別するという事態を生み出します。天才科学者は暴走を止め娘を救うべく、AIに再学習を試みます。その学習プログラムの冒頭が“Why were you born? (なぜあなたは誕生したのか?)”という存在意義を問う言葉でした。結果AIの暴走は止まり、もとの社会に戻ります。科学者は最後に「AIは人を幸せにできるか」の問いに答えを求められますが、娘に「親は子供を幸せにできるか」と同じ究極の課題であることを告げて、自分自身は子供とAI社会とは隔てた社会へと帰っていきます。

コロナ禍で、日常社会は一気に情報化へ加速しました。正にこのようなAI社会もより現実化してきました。と同時に地震災害も含め、改めて自然の計り知れない驚異も現実社会です。この二面性をもつ社会を担う力は、人間力という思いがします。どんなにAI化が進もうとも、また自然の驚異と対峙したときも、私達の経験、人間としての尊厳、思い、自主性等々総じて人間力が鍵であり、それは島立ち後の子供たちを確実に支える核になる力と通じる感があります。海陽中での学校生活も1か月余りとなりましたが、今まで接してきた私達教員だからこそできる、子供たち一人一人の人間力を培い鍛錬する機会や場面をサポートし、海陽を巣立った子供が生きぬく力、人間力の育成に最後まで全力で努力していきます。

## 第2回1、2年中・中交流学習

4月から本校の休校に伴い、現1、2年生は海星中学校へ通うこととなります。そこで、4月からの新しい学校生活に対する不安を少しでも取り除き、円滑なスタートを切ることが出来るようにするために、1月22日に1、2年生を対象に2回目の海陽中・海星中交流学習(中・中交流)を行いました。生徒は海星中で海星中の生徒と一緒に授業を受けたり遊んだりして、1日を過ごしました。また、入学説明会にも参加し、海星中の生活ルールの説明を受けました。

生徒からは、「海陽とは違う1日のスケジュールに今回も困惑しましたが、海星中学校の様子を見ることができて良かったです。」「海星中学校までバスで来たときは、とても緊張しました。最初は海星中学校の生徒とは、あまり話していなかったけど、授業などを通して、少しは話せるようになりました。4月から海星中学校に通うことになるので、話せてよかったです。」「最初はとても緊張したけれど、だんだん慣れてきて良かったです。とても楽しく、おもしろくして過ごしていけたら良いと思います。」といった感想がありました。



## 甌島方言講演会

中・中交流の一環として、中・中交流と同日の1月22日に、国立国語研究所の窪菌晴夫先生を講師として、甌島方言講演会が実施されました。今回は、新型コロナウイルス感染症対策のため、東京-甌島間のリモート講演会となりました。1、2年生は海星中学校から、3年生は海陽中学校の3年教室から講演会に参加しました。



講演会では、日本語の特徴や漢字の音読み、訓読みに関すること、全国の方言の紹介や同じ言葉でもアクセントの位置で意味が変わること（はし（橋）とはし（箸））など、おもしろくおかしく、そして分かりやすく説明してくださいました。その上で、方言は生活の言葉であり、地域の財産であること、方言がなくなりつつあり、一度なくなると復活できなくなること、TPOに応じて標準語と方言を使い分けることが大切などのメッセージを送ってくださいました。生徒からは「今は世界中に6000もの言語があるけれど、100年後には300ぐらいになると聞いて驚きました。甌島の方言をできるだけ話すなどして大切にしたいです。」といった感想がありました。

## 食に関する指導（2年生）

1月26日、2年生を対象に本校の当房養護教諭と下甌給食センターの本佳子栄養教諭のTTによる「食に関する指導」を行いました。



2年生は、全体的に一度の間食でカロリーを摂り過ぎている生徒が多い傾向にあり、間食と健康が結びついていない生徒が多かったので、授業では間食の役割や、目安量、栄養面での注意事項などを丁寧に指導していただきました。この授業をとおして、カロリーや栄養面を考えながら間食を摂ろうという意識が生徒たちは芽生えたようです。

## 鹿児島学習定着度調査 結果について

学力の実態を把握する調査で、毎年県内全ての小・中学校で実施しています。この調査の結果を基に、3月末まで補充指導を行い、定着を図っていきます。

### 中学1年

	国語	社会	数学	理科	英語
学校平均	65.3%	63.0%	67.9%	86.1%	82.7%
市平均	75.6%	65.4%	70.2%	69.3%	67.7%
県平均	78.7%	64.4%	74.9%	70.4%	68.1%

### 中学2年

	国語	社会	数学	理科	英語
学校平均	66.2%	62.5%	54.2%	83.3%	64.5%
市平均	74.7%	65.4%	62.6%	68.7%	55.3%
県平均	76.7%	67.7%	67.1%	70.9%	57.8%

## 課題と改善策

### 【国語】

- 文の前後の関係を正しく捉え、叙述に即して内容を理解したり、資料の特徴や構成、意図を正しく捉えることが課題である。また、小学校学習漢字の誤答が目立った。授業では、情報の読み取り方について再度指導し、資料、記事等の特徴を理解させ、読み取る力を育成する。漢字については、再復習させる。

### 【社会】

- 資料や図から情報を読み取り、内容を整理して説明する問題において誤答の傾向が見られた。授業においては、自分の考えを文字に書き表したり、発表したりなど、自分の考えを表現する活動を取り入れる。

### 【数学】

- 図形に係る問題や、文字を使った証明問題で落ちこみが見られた。図形問題、証明問題ともに、より多くの問題を経験させ型を定着させる。問題解説をその都度理解できるまで丁寧に行い、正答するまで繰り返し問題を解かせる。

### 【理科】

- 抽象的な概念であるエネルギーや事象をイメージで表現することが難しい。そのため、目には見えない力磁気、原子・分子などの粒子をモデル化するなどしてイメージ化につなげ、段階を追って練習させるようにする。

### 【英語】

- 文脈から正しい語を選択したり、対話文の内容や話し手の意見などを捉え、自分の考えを英文で示したりする問題で誤答・無答が目立った。主体的に英文を読んで考えたり、判断させたりする機会を増やし、英語で即興で表現する活動を継続して行う。

## 3月行事

- 4 (木) 性に関する指導（2年）
- 5 (金) ALT来校
- 9 (火) 公立高校入試（～10日）
- 13 (土) 送別球技大会・シェイクアウト訓練
- 16 (火) 卒業式・休校式
- 24 (水) 公立高校入試2次選抜
- 25 (木) 修了式・お別れ式

